

10:1 さて、私パウロは、キリストの柔軟と寛容をもって、あなたがたにお勧めします。私は、あなたがたの間にいて、面と向かっているときはおとなしく、離れているあなたがたに対しては強気な者です。

10:2 しかし、私は、あなたがたのところに行くときには、私たちを肉に従って歩んでいるかのように考える人々に対して勇敢にふるまおうと思っているその確信によって、強気にふるまうことがなくて済むように願っています。

10:3 私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。

10:4 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

10:5 私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち碎き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

10:6 また、あなたがたの従順が完全になるとき、あらゆる不従順を罰する用意ができているのです。

10:7 あなたがたは、うわべのことだけを見ています。もし自分はキリストに属する者だと確信している人がいるなら、その人は、自分がキリストに属しているように、私たちもまたキリストに属しているということを、もう一度、自分でよく考えなさい。

10:8 あなたがたを倒すためにではなく、立てるために主が私たちに授けられた権威については、たとい私が多少誇りすぎることがあっても、恥とはならないでしょう。



10:9 私は手紙であなたがたをおどしているかのように見られたくありません。

10:10 彼らは言います。「パウロの手紙は重みがあって力強いが、実際に会ったばあいの彼は弱々しく、その話しぶりは、なっていない。」

10:11 そういう人はよく承知しておきなさい。離れているときに書く手紙のことばがそしたら、いっしょにいるときの行動もそのとおりです。

靈的指導者というものは、たとえ自分の考えが正しくても、相手を威圧したり問い合わせたりして目的を達成するものではありません。それでは人は内面的には変わらないからです。むしろ反感の方が強くなるでしょう。

パウロは牧会者として、全体への手紙には真理を明確にしつつも、個人的には相手の心に沿った対応をしたのでしょうか、コリント教会にはそれでパウロを甘く見て、「弱々しく、その話しぶりは、なっていない。」などと言う人がいたようです。

パウロは歯がゆい思いをしたでしょうが、あくまで彼の願うところは「肉（の力）に従って戦う」うのではなく、「肉の物ではなく」すなわち神の物である靈の力によって戦うことです。

サタンはクリスチヤンの心にも、神のみこころに反する思いを起こさせるために影響を与えようと、心の「要塞」を設けています。神様に従えない人の多くが、心の傷や間違った価値観や靈的な縛りが「要塞」となってしまい、それに影響されているのです。パウロはその「要塞をも破る」必要を感じていましたが、それは威圧よりも靈の戦いであると知っていたのです。

自分自身の成長のためにも、また他の人の成長のためにも、「うわべ」ではなく靈のレベルで見て考え祈り期待しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

